| 学校番号 | ４１２ |
|---|---|

令和５年度　公民科

| 教科 | 公民 | 科目 | 倫理 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ３年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 清水書院「高等学校　新倫理　新訂版 | | | | | | |
| 副教材等 | 完全 MASTER 倫理問題集（清水書院）　倫理用語集（清水出版） | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・世界とは何か、人間とは何か、人生どう生きたらよいか、自己とはどのような存在なのか、社会にどのようにかかわっていけばよいかなどについて思索する学問である。
・他者と切り離された自己ではなく、他者と共に生きる主体としての自己の確立を思索する学問である。
・単なる知識ではなく、自己の課題として捉える。

2　学習の到達目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:資料活用の技能 | d:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | **人間尊重の精神と自己形成について関心を高め，人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに，これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け，人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。** | 生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし，人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに，良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。 | **青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し，これらを自己形成に資するよう活用するとともに，追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。** | **青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を，生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身に付ける。** |
| 評価方法 | レポート | 定期考査<br>レポート | 定期考査<br>レポート | 定期考査<br>レポート |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 1学期 | 第1編　青年期と人間としてのあり方・生き方 | 第1章　人間とは何か<br>人間性の特質<br><br>第2章　青年期の課題と自己実現<br>1　青年期の意義<br>2　自己の理解に向けて<br>3　豊かな自己実現のために | <br>○<br><br><br>○<br>○<br>○ | <br>○<br><br><br>○<br>○<br>○ | <br><br><br><br><br>○<br>○ | <br>○<br><br><br>○<br>○<br>○ | a：人間とは何かという根本的な課題に関心をもち考察しようとする意欲をもっている。青年期を現在の自分のこととして，関心をもち，その課題に取り組もうとする意欲をもっている。<br>b：発達心理学上の成果などから，青年期の課題を現在の自分のこととして考え，その解決に向けて模索している。自己自身の生き方や在り方について，パーソナリティ，アイデンティティ，適応といった一般理論から，個々人の現実の次元でそれがどうなっているか判断することができる。フランクル『夜と霧』から，極限状態における人間の行動や心理を把握し，人間の特質について考察することができる。<br>c：青年期の課題に関連した芸術作品や様々な資料から，その課題を自分の言葉で表現することができる。<br>d：青年心理学や発達心理学上の知見（モラトリアム等）について理解し正確な知識をもっている。パーソナリティ，適応，葛藤，欲求不満，防衛機制，自己実現などの概念を理解し，自己の特性について客観的に把握することができる。自己自身の生き方や在り方について，アイデンティティやモラトリアムといった言葉を適切に使うことができ，青年期の発達課題をまとめることができる。 | 定期考査<br><br>レポート |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1学期 | 第2編　人間としての自覚と生き方 | 第1章　人生における哲学<br>1 神話から哲学へ<br>2 自然哲学の誕生とソフィスト<br>3 真の知への道 ソクラテス<br>4 理想主義的なあり方 プラトン<br>5 現実主義的なあり方 アリストテレス<br>6 幸福をめぐる問い ヘレニズムの思想 | <br>○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | <br>○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | a: 古代ギリシャにおける人間の生き方や在り方について先哲が考え実践したことが普遍的な意義をもつものとして関心をもって学ぶ意欲・態度をもっている。<br>b: 基本的な歴史的知識を踏まえて認識し，自然哲学者，ソクラテスやプラトン，アリストテレスまたヘレニズム期の思想家の生涯と思想を通して，その意味について考えることができる。<br>c: 古代ギリシャにおける哲学者の資料を読み，人間の生き方や在り方について，自分の考えを文章で表現することができる。<br>d: 古代ギリシャにおけるロゴス，無知の知等の概念について理解し，**人格の形成に生かす知識として身に付ける。** | |
| | | 第2章　人生における宗教<br>第1節 キリスト教 愛の宗教<br>1 ユダヤ教<br>2 イエスの思想<br>3 世界宗教への展開<br>第2節 イスラームー啓示と戒律の宗教 | <br><br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br>○<br>○ | a: ユダヤ教，キリスト教，イスラームの在り方について、それが人間の罪や苦悩からの救済をめざす宗教として、普遍的な意義をもつものとして関心をもって学ぼうとする意欲・態度をもっている。<br>b: 基本的な歴史的知識を踏まえて認識し，預言者等の生涯と思想を通して，その意味について考えることができる。<br>c: 『旧約聖書』などの原典を読んだり，またそれに触れた小説等の芸術に接し，それに基づいて自分の考えを文章で表現することができる。<br>d: ３宗教の基本的知識や概念について理解し，**人格の形成に生かす知識として身に付ける。** | 定期考査<br><br>レポート |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1学期 | | 第3節　仏教　悟りと慈悲の宗教<br>1　バラモン教<br>2　仏陀の思想<br>3　仏教のその後の展開<br>第3章　人生の知恵<br>1　孔子と儒家の思想<br>2　儒教の展開<br>3　道家の思想<br>第4章　人生における芸術 | <br><br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br> | <br><br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br> | <br><br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○ | a：仏教における人間の生き方や在り方について，仏陀や竜樹などその宗教指導者が考え実践したことについて，また中国における人間の生き方や在り方について，孔子や孟子・荀子，また老子や荘子などが考え実践したことについて，それが自己自身の生き方に深く関わるものとして関心をもって学ぼうとする意欲・態度をもっている。<br>b：基本的な歴史的知識を踏まえて認識し，仏教や中国古典思想またそれぞれに属する代表的な思想家の生涯と思想を通して，その意味について考え正しい判断をもつことができる。<br>c：仏教や中国古典思想またそれぞれに属する代表的な思想家の資料に基づいて自分の考えを文章で表現することができる。<br>d：仏教や中国古典思想またそれぞれに属する代表的な思想家の基本的知識や概念について理解し，**人格の形成に生かす知識として身に付ける。** | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2学期 | 第3編 現代社会と倫理 | 第1章　現代の倫理的課題<br>第2章　現代に生きる人間の倫理<br>第1節　人間の尊厳<br>1 自己肯定の精神<br>2 宗教観の転換<br>3 人間の偉大と限界<br>第2節　自然や科学技術と人間とのかかわり<br>1 自然への目と科学的なものの見方<br>2 事実と経験の尊重<br>3 理性の光 | ○<br><br><br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | <br><br><br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | <br><br><br>○<br>○<br>○<br><br><br>○<br>○ | ○<br><br><br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | a: ルネサンス，宗教改革，モラリストの思想について，それが現代の私たちの芸術や，宗教観，近代的人間観に基本的な枠組みを提供していることを踏まえ，探求する意欲や態度をもっている。また近代科学の方法の確立と発展及び科学の原理的考察に関して科学の方法論的考察としてデカルトやベーコンの思想に関心をもち，探求する意欲や態度をもっている。<br>b: ルネサンス，宗教改革，モラリストの思想について，近代の人間観が現在にも有効であることを理解し，また天動説から地動説へ、科学方法論の世界観の特徴をを踏まえて、現代的な課題について客観的で公正な判断をくだすことができる。<br>c:ルネサンス、宗教改革、ベーコンやデカルトの諸資料を参考にし、その特徴を文章に表現することができる。<br>d:ルネサンス、宗教界改革、近代の合理的思考について正しい知識や理解をもち、それについて文章を書くことができる。 | 定期考査<br><br>レポート |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 第3節　民主社会における人間の在り方<br>1 民主社会の原理<br>2 人権思想の展開<br>第4節　自己実現と幸福<br>1 人格の尊重と自由<br>2 自己実現と自由<br>3 幸福と功利<br>4 創造的知性と幸福 | <br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○ | a:近代社会における個人と国家と社会の関係について、また１９－２０世紀の欧米の哲学について、現代に直接的な繋がりがある思想として関心をもち、探求する意欲や態度を持っている。<br>b:社会契約論者の思想、カント、ヘーゲル、功利主義やプラグマティズムの特徴を踏まえて、その現代的意味について適切に判断することができる。<br>c: ホッブズ、ロック、ルソーの著作、カント、ヘーゲル、功利主義やプラグマティズムの思想家の著作を参考にし、その特徴を文章に表現することができる。<br>d: 社会契約論者の思想、カント、ヘーゲル、功利主義やプラグマティズムについて正しい知識や理解をもち、それについて文章を書くことができる。 | 定期考査<br><br>レポート |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2学期 | | 第5節　個人と社会とのかかわり<br>1　人間性の回復を求めて社会主義<br>2　人間存在の地平実存主義<br>3　他者の尊重<br>4　社会参加と他者への奉仕<br>第6節　:現代における理性の問題<br>1　生命への畏敬<br>2　理性主義の見なおし<br>3　科学観の転換 | <br>○<br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | <br>○<br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | <br>○<br>○<br>○<br>○<br><br><br><br>○ | <br>○<br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | a: マルクスの社会主義や実存主義について，私たちの生きる世界と時代に直接関わっている思想として、また 20 世紀後半の思想が一般に理性主義への反省，生命や無意識への注目，公正や正義についての新しい考え方において成立している思想として、関心をもち，探求する意欲と態度をもっている。<br>b:社会主義、実存主義、ロールズの思想、他の２０世紀後半の思想の現代的な意味について適切に判断することができる。<br>c: 社会主義、実存主義、ロールズの思想、他の２０世紀後半の思想家の著作を参考にし、その特徴を文章に表現することができる。<br>d: 社会主義、実存主義、ロールズの思想、他の２０世紀後半の思想の基本的知識や概念について理解し，**人格の形成に生かす知識として身に付ける。** | 定期考査<br><br>レポート |
| | 第4編　国際社会に生きる日本人の自覚 | 第1章　日本の風土と外来思想の受容<br>第1節　日本の風土と伝統<br>1　日本の風土と人々の生活<br>2　古代の人々の考え方<br>第2節　仏教の伝来と交流<br>1　仏教の移入　古代仏教の思想<br>2　仏教の土着化　鎌倉仏教の思想 | <br><br>○<br>○<br><br>○<br>○ | <br><br><br>○<br><br>○<br>○ | <br><br><br>○<br><br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br><br>○<br>○ | a: 日本の風土や日本人の自然観・宗教観・倫理観について，および、わが国における仏教の受容と展開及びわが国独自の仏教の成立と発展について，現在の自分の生き方や在り方にも関わるものとして関心をもって考えようとする意欲態度をもっている。<br>b: 日本の風土や日本人の自然観・宗教観・倫理観の特徴および仏教信仰の内的な発展について，種々の文献・資料に基づいて，歴史的な諸事実や客観的な証拠・論拠に拠って判断することができる。<br>c: 古典から現代の日常生活に | 定期考査 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | いたるまで様々な文献や資料、また仏教祖師たちの原典などの資料等を活用し，認識を深め，その特徴を文章に表現することができる。<br>d: 日本の風土や日本人の自然観・宗教観･倫理観また仏教祖師たちの思想の基本的知識や概念について理解し，**人格の形成に生かす知識として身に付ける。** | |
| | | 第3節　儒教の日本化<br>1 儒教の伝来と朱子学<br>2 陽明学<br>3 古学<br>第4節　日本文化と国学<br>1 古典美の再発見<br>2 国学<br>第5節 近世庶民の思想<br>1 都市庶民の思想<br>2 農民の思想<br>第6節 西洋近代思想の受容<br>1 西洋文明との接触<br>2 啓蒙思想と民権論<br>3 キリスト教の受容<br>4 国家主義の高まりと社会主義<br>5 近代的自我の成立<br>6 近代日本哲学の成立<br>7 近代日本の思想傾向への反省 | <br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | <br>○<br>○<br>○<br><br><br>○<br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | <br>○<br>○<br>○<br><br><br><br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | <br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ | a: わが国における儒学の受容とその日本化について，日本人のものの考え方の一つの伝統を形成したこと、国学がわが国の固有の考え方や生き方に基づいて主張されたこと、町人や農民の思想についてのこと，近代日本の思想について，幕末から明治維新，明治期，大正から昭和，それぞれの特徴とその代表的な思想についてのこと、それぞれに興味や関心をもち，探求する意欲や態度をもっている。<br>b:武士や町人の生き方や考え方となった儒学の諸傾向を代表する思想、国学の諸傾向を代表する思想、町人や農民思想、幕末から現代に至る日本近代の思想、それらの思想の現代的な意味について適切に判断することができる。<br>c: 日本の儒学を代表する思想、国学を代表する思想、町人や農民思想、幕末から現代に至る日本近代の思想、それらの思想の資料を参考にし、その特徴を文章に表現することができる。<br>d:日本の儒学の諸傾向を代表する思想、国学を代表する思 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 想、町人や農民思想、日本近代の思想、それらの思想の基本的知識や概念について理解し，**人格の形成に生かす知識として身に付ける。** | |
| 3学期 | 第5編　現代の諸課題と倫理 | 第1章　生命と倫理<br>第2章　環境と倫理<br>第3章　現代の家族とその課題<br>第4章　地域社会の変容と共生<br>第5章　情報社会とその課題<br>第6章　グローバル化の時代と倫理<br>第7章　人類の福祉と国際平和 | ○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | ○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br>○<br>○<br>○<br><br> | ○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | a: 生命科学、環境問題、家族や情報社会、国際社会における諸課題を研究テーマとして関心をもち探究する意欲と態度をもっている。<br>b: 生命科学、環境問題、家族や情報社会、国際社会における諸課題について考え、広い視野に立って適切な判断を行うことができる。<br>c: 生命科学、環境問題、家族や情報社会、国際社会における諸課題について考え、その勧化をまとめ文章で表現することができる。<br>d: 生命科学、環境問題、家族や情報社会、国際社会における諸課題についての基本的な知識を持ち、適切な判断や行動のための実践的な認識をもっている。 | レポート |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。